

活用場面

B2、C2

課題に対する自分の解決の視点や仲間の考えのよさに気付く ICT の効果的な活用

活用したソフトや機能：一覧表示機能、画面共有機能

学 年：中学校第2学年 教科：家庭科

題 材 名：B 衣食住の生活 日常食の調理「魚の調理」

○ 本時について(10/13)

(1)ねらい

・魚の種類や調理上の性質、よさを調べる活動を通して、調理法によって、硬さ、色、味、においなどに違いが出ることに気づき、魚の性質や家族のニーズに合った調理方法を工夫して考えることができる。

(2)評価規準 魚の調理上の性質を生かしたよりよい調理方法を工夫して考えている。【思考・判断・表現】

(3)学習展開

過程	学習活動	ICT活用場面
導入	1 魚と肉の摂取量の推移のグラフを比較する。	★A 課題の設定 ・大型提示装置でグラフを示し、肉と魚の摂取量の差を可視化することで興味喚起を促し、疑問や問題点を見いだす。 ★B1情報の収集 ・インターネットの検索機能、クラウド上に用意した資料をもとに主体的に収集・整理・分析し、魚に関する知識を増やす。
	2 アンケート結果から魚料理が好まれていないことや食べられていない現状を把握し、問題を見いだして課題化につなぐ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 魚をより美味しく食べるには、 どのような調理法が適しているのだろう </div>	
展開	3 魚の性質や調理法を調べる。 ・種類・食感・味・栄養・調理方法・旬等を調べよう。 ・自分の食生活の課題は～だから～について詳しく調べたい。	★C2 整理・分析 ・一覧表示・画面共有機能を使い一人一人の考えをお互いにリアルタイムで共有し、双方向の意見交換を行う。
	4 家族にどんな魚料理を振る舞うか、家族一人一人のニーズを踏まえてよりよい方法を考える。 ・おじいちゃんは、油の摂りすぎを気にしているので、健康のために天ぷらやフライではなく、煮付けやホイル焼きにして余分な油が増えない工夫をしたい。 ・私は魚の生臭さが苦手なので、下処理で塩を振って余計な水分を取り、さらに生姜やネギと共に煮て香りみそで味付けをしよう。	
終末	5 学習内容を振り返り、生活に生かす。 ・魚の調理上の特性を生かした工夫がわかった。これからは健康のために魚を使った献立をもっと知って作れるようになりたい。	



活用の際のワンポイント！

- 題材を貫く課題と関連付けて情報収集するよう促す。
- 既習内容の肉の調理上の特性等を比較するとよいことを共通理解する。